

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100050		
法人名	株式会社 葵		
事業所名	あおい介護センター 梅香丘温泉グループホーム【ユニット名:みかん】		
所在地	和歌山県日高郡みなべ町埴田1540番地67		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成27年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3092100050-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成27年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは2ユニット制の定員が18名の事業所となります。近隣の市町村からも指定を受けており、条件を満たせば、みなべ町在住以外の方の受け入れも可能です。温泉も引いており、普段の入浴は温泉浴となります。毎日のラジオ体操やリハビリ体操、脳トレ、歌レク、買い物、園芸、手芸、書道など多種にわたるレクリエーションを活発に行っています。敷地内に畑や芝生もあり、農作物の収穫や藤棚で屋外のおやつ等も楽しめます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が自由な雰囲気の中で主体的に安心した生活ができるよう見守り、支援している。朝礼やラジオ体操等の日課や、戸外での畑作業や種からの花作りも行い、ボランティアによる作品作り、レクリエーションにも力を入れて、利用者の選択肢を多く用意して興味や楽しさを引き出せるよう取り組んでいる。買い物や外食など、地域に出かける機会を設け、図書館など、地域の社会資源の利用や地域の行事に参加することで、地域の人々との交流を図っている。毎月発行の事業所の新聞を、行政機関や医療機関に配布するなど、高齢者のケアの拠点として、周囲の理解と協力が得られるよう地域に発信している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一笑(生)、一緒に活きましょう」の理念を元実践している。玄関に掲示しており誰でも見る事が出来るようにしている。	理念に基づいて、職員がまず笑顔で、利用者の出来ることを把握し、自主性を大切にしながら一緒に笑顔のある生活が送れるように、管理者・職員が共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々のボランティアの受け入れや、町内会の行事にも参加し交流している。町内の買い物や病院受診も定期的に行っている。中・高校の体験学習受け入れも行っている。	散歩や買物、ボランティアや中学生の体験学習の受け入れを行い、交流を続けている。国道沿いの地域の花壇の管理を任せ、今年、県内で開催される国体に向けて、花の種を植えて激励の文字を添えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、家族、面会の方にも認知症の事を伝え理解、相談が出来る機会を設けている。新聞も毎月発行しており、家族、役場、病院にも定期的に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区長、役場・社協職員、家族の方に参加して頂き、地区会館を借りて定期開催している。参加者や全家族に議事録を郵送している。	新たに地区長の出席が得られ、事業所と地域との関係も築かれてきている。会議の内容は事業所の取り組み状況の報告が中心となっている。利用者家族にも案内を出し、毎回数名が出席している。	議題やテーマの選定や進め方の工夫でそれぞれの立場からの意見を集めて、地域の高齢者ケアの拠点として、今後の取り組みに活かせることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は毎月発行の新聞配布時や運営推進会議で情報交換しており、協力関係を築いている。	町役場の担当者や社協の職員とは、運営推進会議の場で話し合い、その後議事録を郵送している。情報交換できるよう足を運び、事業所が毎月発行する新聞を手渡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならぬよう、常にケアの確認をしており、家族、職員に説明している。基本的に玄関の施錠は夜間、早朝以外はしていない。	職員の見守りが手薄になる時間帯にはユニットの出入り口を施錠しているが、玄関は日中常時解放しているため、2つのユニットの中央にある事務所からは外へ出ることができる。利用者を拘束することなく安全確保できるよう努め、家族にも説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に健康管理を行い防止に努めており、家族との連携も頻繁に行っている。また虐待行為が無いよう、人員配置にも気をつけている。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム【ユニット名:みかん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方もおり、その都度、職員に後見人との連携説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明しており、また相談窓口の説明も行っている。法改正時も案内文を郵送し、署名捺印を頂いている。必要であれば随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に、気軽に相談にのっている。家族からの要望も全職員に周知し、迅速に対応している。	家族の来訪時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞けるようにしている。意見や要望を聞いた時は要望書に記入し、会議で検討し改善し、対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロー会議、管理者会議の議事録の掲示や、グループホーム会議で職員同士の意見交流の場を設けており、日常会話の中からも要望を聞き出している。会議は全て議事録を残し、いつでも閲覧出来るようにしている。	会議の中で職員の意見や提案が出され、話し合われている。管理者は、常日頃から職員の声を聞くようにしており、出された提案を任せることで仕事のやりがいや定着化に繋がりを、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや疲労には気配りをしている。また極力、希望する公休日が取れるように努め、連休も取得出来ている。リフレックス休暇制度も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて計画を立てている。また研修会や講習会には積極的に参加するようにしている。参加出来なかった職員にも研修内容を閲覧出来るようにファイリングしており、研修等の社内回覧板を設け参加者を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の機会に交流を持ち情報交換させて頂いている。また、その後も継続して連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時決定時に本人と面会し、面接シートを作成、生活環境の状況把握を行い、新たな関係作りの支援方法に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に家族と面会し、困っている事や要望を聞き面接シートに記入して希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接での聞き取りと本人の様子を含めた状況から介護職員全員に、リスク等の注意点を伝えている。状況により福祉用具の検討も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	担当職員を中心としたケアを全体で行っており、家族に近い関係性を構築している。本人の出来る事を見つけ、職員と同じように実施して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の担当職員を決め、きめ細かい支援をする為に家族との電話連絡、報告、相談をしている。病院受診報告もその都度行っており、家族の都合に合わせてられるよう、面会時間も特に定めていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店や、かかりつけ医の受診も継続して支援している。町内の花火大会やお祭りにも参加している。	行きつけの理容室・魚屋・スーパーに出かけられるよう配慮している。敬老会・お祭り・花火大会などの行事で地域に出かけた時に知人、友人等に会って話しをすることもでき、馴染みの場所や人との関係が続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、毎日のケアや申し送りでも状況確認している。全体レクを取り入れ交流の場を提供したり、ユニット間の移動も自由にしている。テーブルやソファの座席も自由にしている。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム【ユニット名：みかん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退去された方の状況把握をして定期的に、又は折にふれ様子伺いやお見舞いによる本人、家族の心のケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、利用者の思いや要望を聞き、なるべく希望に添えるよう支援している。職員優先にならぬよう、利用者の自己決定を尊重している。情報共有し、統一したケアを行っている。	担当職員を中心に、日常会話の中から本人の思いを把握して記録し、職員間で共有している。その日の行事などへの参加や、過ごし方は、本人の意思を尊重できるよう、全職員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや本人、家族からの情報や要望を聞き、生活環境の変化をなるべく少なくするように連携を取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやレクリエーション、コミュニケーションを通じ、個々の利用者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居決定後、前ケアマネ、本人、家族からの情報を元に独自の「15の窓」シートを使い、介護計画に繋げている。利用者の状態に合わせ、随時カンファレンスも行っている。	事業所独自のシートを作成し、一人ひとりの利用者の詳しい情報を介護計画に反映できるよう取り組んでいる。3ヶ月に1度見直しを行い、職員間で検討した内容や家族の声も聞いて新しい計画につなげている。	利用者のできること、したいこと、得意なことなども計画の中に入れて職員が関わることで、一人ひとりの利用者が、さらに安心して、その人らしい生活を楽しめることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録の記入や、朝夕の申し送りで介護計画に沿った統一したケアが出来るよう職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応を重視して、その人らしく生活出来るように個別対応のサービスを介護計画に取り込んで実施している。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム【ユニット名：みかん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意見を尊重し、買い物等は馴染みの店に行けるようにしている。自己にて出来る事はなるべくして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診、緊急時の対応等を受けられるよう支援している。かかりつけ医の受診も希望すれば対応している。受診内容は必ず家族に報告している。	協力医療機関の往診による定期的な受診を受けることができる。希望があれば、以前からのかかりつけ医への受診支援も行い、同行した際に、事業所の新聞を持参し、医師との関係を築きながら取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医・家族と相談の上、必要であれば訪問看護を利用したり受診も受けられるようにしている。二週間に一度の往診時に医師・看護師に状態を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の体調や薬についても医師に相談し連携を取っている。入院後は担当医師に情報を求めている。入院時の面会も積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とも方向性を十分に話し合い、支援を行っており同意書にも署名捺印してもらっている。急な家族の泊りも受け入れており、自宅と同じような環境で生活出来るように努めている。	医療機関に入院して退院となった利用者もいるが、軽度の利用者が多く、看取りの経験はまだないので不安を持つ職員もいるが、ターミナルケアの研修を受け、協力医療機関の医師・看護師と共に、看取りの体制を整えて実践に向けて準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えとして連絡網を利用し対応しているが定期的な訓練は行っていない。緊急時の対応研修は参加している。(AED、心肺蘇生等)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所については指定場所を事務所に掲示し全職員が周知出来るようにしている。災害時の地域との連携は出来ていないので運営推進会議等で決めて行く。	海岸に近く、津波の際には避難場所への迅速な移動が必要とされ、普段から避難経路を歩く機会を持ち、安全に移動できるよう取り組んでいる。火災については、担当者を決めて、未然に防げるよう点検等徹底している。	夜間の災害時の避難にも備え、消防署・近隣住民に呼びかけ、地域との協力体制を築いていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り本人の要望に応えられるように対応し、本人に合った声かけを心掛けている。	一人ひとりの思いやプライバシーを尊重し、丁寧な言葉かけに努めている。入浴・排泄の介助の際、異性の職員に抵抗感を持つ利用者には同姓の職員で対応できるよう配慮している。	プライドや羞恥心に配慮したトイレ誘導の声掛けなどについて、職員間で話し合い、より利用者の気持ちに沿った接し方ができることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制的なレクリエーションの参加や入浴はせず、本人の意思を尊重し、無理のない対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者には希望要望に沿えるような環境作りを目指す為、利用者と十分なコミュニケーションを取るようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自分で選んでもらったり、職員が助言したりしている。散髪は馴染みの店を利用したり、訪問理容を利用している。髪型も本人に決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託会社にしてもらっている。おしぼりをたたんだり、トレイ、テーブル拭きは職員と一緒にやっている。職員は同じテーブルで食事を摂っている。外食やおやつ作りも行っている。	調理は業者に委託しているが、月に一度おやつ作りを楽しむ機会を設けている。好物を買ってきて献立に添える利用者や、休憩時間に自分の昼食を利用者のそばで食べる職員もいて、自由な雰囲気です食を楽しんでいる。	調理場と離れているユニットでも、調理の音や匂いが感じられるような工夫で、食を楽しむ雰囲気づくりができることが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者により塩分を控えたり、決まった水分量を定期的に提供している。医療とも連携し、健康状態の維持に努めている。スポーツ飲料の摂取も勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助をしており、強い拒否があった時は時間を置いて声掛け対応している。口腔ケアの記録もしている。		

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム【ユニット名:みかん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ定期的なトイレ誘導を行ったり、訴えがあれば介助している。混雑時は居室のポータブルトイレの利用や、隣りのユニットのトイレを利用して頂いている。	一人ひとりの状態に合わせてトイレ誘導や介助を行い、出来るだけトイレで排泄できるよう取り組んでいる。排泄の失敗には、本人の羞恥心や自尊心に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を心がけており、排泄記録を参考に、必要に応じ医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は予め決めているが、無理強いはせず曜日を変更して対応している。個浴で温泉風呂になり、入浴順もなるべく公平になるように対応している。	個浴で温泉風呂を楽しむことができる。週3回入浴できるよう、それぞれの利用者の入浴の曜日を決めていますが、毎日の利用者の状況に合わせて、決められた日以外でも入浴できるよう柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠リズムに合わせて自分の居室で入眠して頂けるように対応。日中も好きな時間帯に臥床出来るようにしている。空調管理で快適な環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋・薬情報を元に管理をしている。薬の効果を得られているか日々確認し、医師、薬剤師とも連携を取って対応している。個人ファイルに薬情報をファイリングし必要時に管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ等、個々の能力に合わせて楽しく作業して頂けるように工夫している。買い物も趣味にあったものを自己決定出来るよう個別に支援し、嗜好品(酒・煙草等)も医師の禁止が無い限り、許可している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と一緒に過ごす時間を大切に、家族の希望を尊重して外泊も出来るようにしている。地域のイベント参加や近所の散歩も職員同行で行っている。数時間の一時帰宅の支援も行っている。	買物、外食、図書館、敬老会等地域の行事等に出かけられるよう支援を行っている。普段から、近隣の散歩、畑作業やプランターでの花作りなど戸外で過ごせる機会を作り、近くの喫茶店に徒歩で出かけることもある。	

【事業所名】あおい介護センター梅香丘温泉グループホーム【ユニット名:みかん】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は本人がレジで支払いが出来るよう、職員も同行している。紛失防止の為、個々の現金は事務所で管理している。契約時に家族にも承諾して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の取り扱いは自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラス・ホールには季節の花を用意し、常に季節感を感じるようにしている。共有部の空調も出来る限り対応している。	食堂、居間の空間は広く、ゆったりと過ごせるソファも配置され、ぬり絵や、新聞を見たりして、利用者が思い思いに過ごしている。テラスには季節の花やテーブルとイス・日よけの parasol が置かれ、気軽に外気に触れてその日の天気や季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの数を増やし、ゆったりとテレビ鑑賞や会話ができるようにしている。テラスへの行き来も自由で、座席も決めていないので、好きな場所で会話や食事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室、和室があり個々の趣味や状態に合わせている。使い慣れた生活用品や家具を持ち込み、好みの部屋になるようにしている。	洋室・和室(畳・畳にベッド)を選択できる。カーテンも好みのものを取り付け、置物等馴染みのものを飾っている。家族や担当職員も手伝い、本人が居心地よく過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の際、障害物となる物はなるべく置かないようにしている。自分の意思で行けるように、トイレと浴室に案内表示もしている。手すりの利用も説明している。		